

「津久井やまゆり園事件」が問いかけたものは、、



生きるのに理由はあるの？

植松容疑者：「障害者は不幸しか生まない
心失者は安楽死させるべきだ」と語った



2019年

2月24日（日） 13:00 開場

社会福祉法人ベテスタ こいしろの里

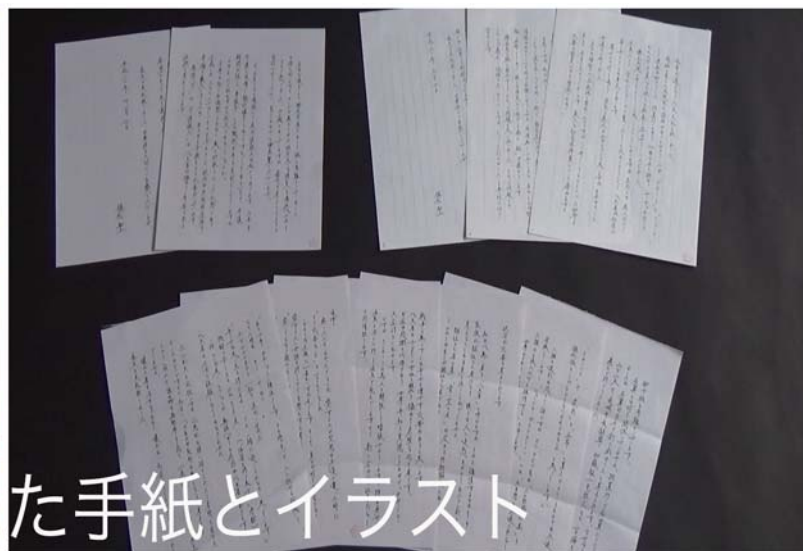
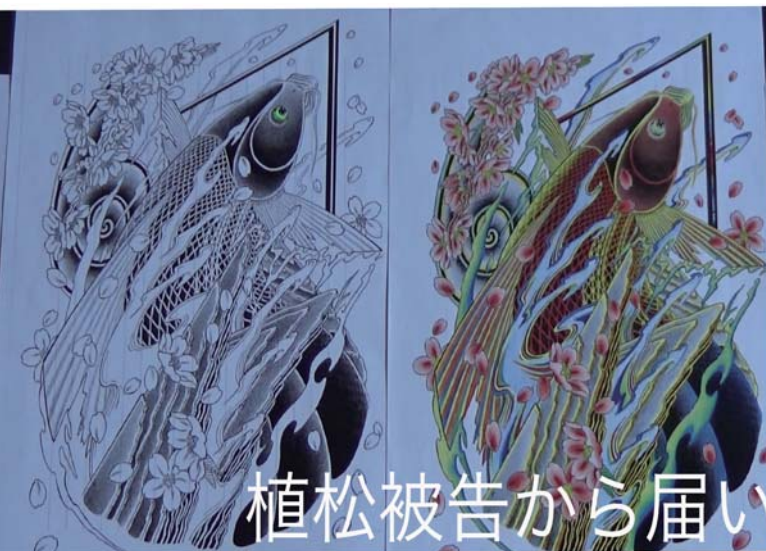
- 原案 堀利和 ■作画 鵜沢夕希子 ■編集・音効 諸橋一男
- ナレーション 小野崎桂 佐久田脩 永田亮子 慶星
- 協力 「創」編集部 社会評論社 伊藤勲 山本加津子・アリス館 V i - v o
- 企画・制作 澤則雄
- 製作 津久井やまゆり園事件を映画化する制作集団

衆議院議長への手紙

私は障害者総勢470名を抹殺することができます。常軌を逸する発言であることは重々理解しております。しかし、保護者の疲れきった表情、施設で働いている職員の生気に欠けた瞳、日本国と世界の為と思ひ居ても立っても居られず本日行動に移した次第であります。

障害者は人間としてではなく、動物として生活を過ごしております。保護者が絶縁状態にあることも珍しくありません。私の目標は重複障害者の方が家庭内での生活が困難な場合、保護者の同意を得て安楽死出来る世界です。障害者は不幸を作ることしかできません。私は大量殺人をしたいという狂気に満ちた発想で今回の作戦を、提案を上げる訳ではありません。全人類が心の隅に隠したい想いを声に出し、実現する決意を持って行動しました。

植松 聖



植松被告から届いた手紙とイラスト

衝撃的な事件は2年半を経てようやく初公判が開かれます。しかし、早くも風化を危惧する声もあります。この作品は、事件の概要と集会や雑誌への投稿をまとめてあります。10人から30人程の人数で上映会を開き、そこでみんなで考える場を作りませんか。

措置入院—精神保健福祉法改正の問題。被害者の匿名報道。巨大入所施設のあり方、地域移行の問題点。優生思想とは—など大きな問題ばかりです。

植松被告個人の何故犯行に至ったのか？の解明と、

それとは別にこの事件が示唆した日本社会の問題にも向き合っていかなければ！と思います。

主催者のご意向に沿って協力させていただきます。

製作集団へ500円のカンパをご協力お願いしております。よろしくお願ひします。

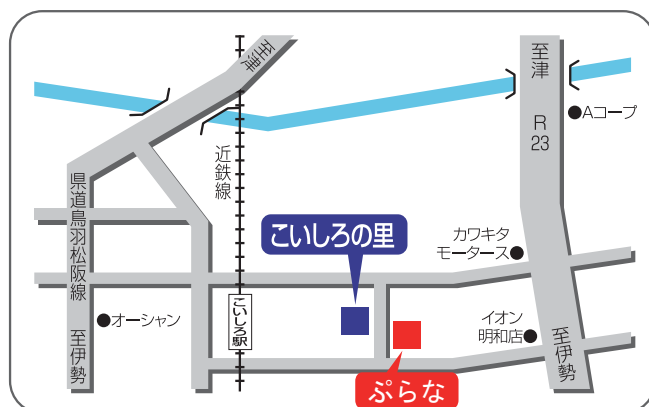
製作 津久井やまゆり園事件を映画化する制作集団
連絡先 澤 則雄 090-5536-9172 noriosawa73@gmail.com

日時:2019年2月24日(日) 13:00開場

場所:社会福祉法人ベテスタ こいしろの里

当日カンパ500円を集めさせていただきます。
定員50名 席に限りがありますので参加希望者は
事前にご連絡ください。

お問い合わせ先
TEL:0598-28-4835



※近鉄「漕代(こいしろ)駅」から徒歩5分